

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 (初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン掲載))

【第17回】

大分県由布市「学楽多塾」(がらくたじゅく)

大分県由布市立挾間小学校長 立川 孝治

少子・高齢化をはじめとする社会情勢の変遷に伴い、地域コミュニティは希薄化し、子どもたちが安心して集い、活動できる場が失われようとしています。そのような中で平成15年度に「はさま地域スクール」を、16年度は「はさま地域子ども教室(学楽多塾)」を開設しました。昨年度は延べ2803人が、18のプログラムに参加しました。

「学楽多塾」は、主に学校の目の前にある市の施設である「はさま未来館」で活動しており、学習・創作・習得・克服・作戦・体感・体験の教室を設け、自由に選択でき、自由に学べるようにしました。由布市には、「未来クラブ」という情報・人材ネットワークがあり、この組織を活用して地域はもちろん、家庭・学校、行政が連携して子どもたちの居場所づくりを進めました。今年度から毎週火曜日に「学楽多ルーム」を追加し、平日においてもさまざまなプログラムを工夫して実施しています。

■お茶入門■

活動場所は「はさま未来館」の和室です。まずはお部屋の入り方から学びます。茶扇(扇子)を手にご挨拶をして部屋に入ります。掛け軸やお道具の拝見をしてから背筋を伸ばして・・・一同ご挨拶です。和室にはいろいろな作法がありますが、ほんのちょっとだけ日本のマナーに触れることができたでしょうか。最後に子どもたちに聞いてみたら「難しいと思っていたけど、意外と簡単だった」「おかしがおいしかった」「これからもやってみたい」などの感想が寄せられました。とっとも緊張した表情の子どもたち。いつもと勝手はちがうようです。ですが、お茶を点てたり、お運びしたりと楽しそうでした。

■ふるさと探検作戦室■

屋外や歴史資料館での活動が中心のこの教室では、現代から縄文時代までタイムスリップをして、時代ごとに人々の暮らしや、使っていた道具を見たり、聞いたり、触ったりして学びました。また、縄文土器を作って昔の暮らしの大変さや工夫などを知りました。「まがたまづくり」をしたり、「火おこし体験」をしたり、煮繭から糸を繰る「繰糸(そうし)」体験をしました。「先生の説明で、昔の人の暮らしを少しずつ知ることができました。今のように機械もなくすべて自分たちが使うものは作っていたと聞いて、苦労していたことは想像がつかます」という子どもの感想が寄せられました。

子どもたちの感想の端々に、体験活動を通して豊かな感性が育まれていることを感じます。この積み重ねが、きっと彼らを人間性豊かな大人へと導いてくれるでしょう。学校教育もまた、地域の協力を得ながら、さらに発展させていきたいと思っています。

(初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン) 第110号に掲載)